



これまで3年間にわたり、「資産運用万華鏡」「100年企業戦略」「マクロウォッチャー」「安田の目」という

ボルテックス

安田 憲治



シリーズで、資産運用の考え方、企業が長く存続する秘訣、マクロ経済の動向、最新テクノロジーの考察などについて寄稿をさせていただいた。今回は「安田の目」シリーズの最終回となる。

世界は未曾有の速度で変化し続けており、長期間にわた

は前年比で約50%増加し、507ギガワット(GW)に達した。この増加は、特に中国の太陽光発電と風力発電の市場拡大によって牽引された。また、28年までには、全世界の電力発電量の42%以上が再生可能エネルギーから賄われる見込みだ。

技術と持続可能性の調和

新たな未来への扉

つて持続可能な供給を実現する「再生可能エネルギー」の分野では顕著な進歩が見られる。2023年に再生可能エネルギーの容量(発電能力)

21世紀の経済成長モデルは、環境保護と資源の有効活用を重視し、持続可能性を追求する方向に進化してきた。この枠組みの中心に、再生可

を推進し、新たな経済的可能性を見出ししている。企業の社会的責任(CSR)が強調されている現代において、富士フイルムホールディングスが23年のCSR企業ランキングで総合首位を獲得した。この成果は、ケニアでの医療品質向上に象徴されるよ

うな環境と社会正義への積極的な貢献によるもので、このような取り組みは、地域社会の持続可能な発展を促し、企業と社会との間の協力関係を築く支えとなっている。

そして、持続可能な未来への道筋を描く際、AIと再生可能エネルギーの統合が重要な役割を果たしている。この流れの中心にあるNVIDIA社の「HGX H200」チップは、エネルギー効率の向上とデータ処理の能力強化をもたらし、環境への影響を軽減すると同時に、情報処理の速度を顕著に向上させている。技術革新は、持続可能な社会へと至る道を加速し、未来への展望を開く鍵である。

寄稿を続けてきたこの期間中、多くの反響をたまわり、色々な方との豊かなディスカッションの機会に恵まれたことに、心より感謝を申し上げます。

(了)

◇やすだ・けんじ 一橋大学大学院経済学研究科修士課程修了。大手総合アミューズメント企業で、データサイエンスの経営戦略への反映に取り組む。現在、株式会社ボルテックスにて、社内データコンサルティングに携わる。多摩大学社会的投資研究所研究員。